5．地域の子育て支援

5－1
あなたは、日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを自覚していますか。

地域社会に保育内容を開示していく事が育児が人としての第一義的仕事である子育ての価値を伝える事になります

保育園での０歳からの擁護と教育を一体とした教育である保育園保育の蓄積で、その姿や育児技術を知っているのは保育園現場です。子どもは命を輝かせ、夢、喜び希望をその命の中に本来持っているはずです。保育内容の一つ一つを意識した、プロの保育方法を知らせていく事は、保育所保育指針の中で示されています。『家庭、保育園、地域が子どもの生活を連続的かつ一貫的にとらえ、相互の協力・連帯関係による保育実践の態度を確立する事が大切である。』この第一章総則で示された内容にもあるように保育園で蓄積されてきた保育を自らだけのものではなく、連携させていく事が必要です。つまり現場で実践している保育内容を積極的に伝えていき、それによって地域社会全体が繋がりを持つ。その中でお互いを信頼し連携させていくことで一人の子どもの成長を共に保育として完成させていくのです。地域に家庭、保育園が繋がり、個人の利益を生む事と同時に、時には一緒に行動し、地域社会全体の利益を生む事が達成されていくのです。

子育て支援をしていく事は、従来の保育に欠ける子どもの保育を親と共にしていく事と同時に、次の世代を育む地域を整え、次世代がもっともっと育児を楽しみ、育児が人としての第一義的仕事であるという子育ての価値を伝える事にもなります。それは、同時に一人ひとりの自己実現（ウエルビーイング）が得られます。子育てにおいての価値を実感する事で自らの人としての本来の有用性を深く実感するはずです。

育児という自分以外の人を育てる事、見守り育む事の、素晴しさを実感してこそ、大人として自らが成熟していく事も味わえるのです。

自分の事で精一杯だった私が、もう一人の人を自立した社会の一員として育てて

いくのですから…。当然子育ては、一人でできません。しかし支援の手は、地域社会の中や、豊かな蓄積をしてきた保育園の中にあります。当たり前のようにやってきた事を具体的に分かりやすく示していく事が、保育園の地域への貢献であり次世代へ向けた大切な仕事の一つです。

（細川）

5－2

あなたは、保育園には子育て相談などの「地域子育て支援」という役割が求められている事を受け止め、自分も積極的にかかわりたいと考えていますか。

『子どもの最善の利益』を守る砦となるべく保育園としての力を保育士一人ひとりが発揮していく事が願われています

現在、一つ一つの家庭の機能（家庭内での生活）が薄くなっています。物質の豊かさはあっても丁寧なプロセスを踏んで行う、家庭内での生活の本来持つべき機能が育ちにくいのです。従来は、その日常の生活を営む家庭の中で夫々が生活する力を自ら育て自立していきます。生きる力を家族の一人ひとりの生活場面と関係の中でつちかいます。保育所保育指針でもその現在の社会の状況と現実をシッカリと受け止め、未来を担う子どもにとって何が大切かを受け止め、『子どもの最善の利益』を守る砦となるべく保育園としての力を保育士一人ひとりが発揮していく事が願われています。

「保育所保育指針・第十三章・２．地域における子育て支援」の中で示されています。実際は、具体的な育児場面を捕らえた保育の相談を受けるなどを通し保育士という育児のプロが日本の保育の歴史の中で積み重ねてきた、素晴らしい保育の力（子育てのより具体的な取り組み）を開示していく事です。

厚生労働省の最低基準を初めとして全国の認可保育園には、安全安心のバランスのよい育児環境があります。その保育を基本に地域の中で育まれた地域らしい膨らみを持たせ、人が人として生涯を豊かなものにしていく事ができる、そんな良いイメージとしての保育環境があるはずです。その充実を更に積み重ねるうえにも、保育園がその本来持つ保育士一人ひとりの力を発揮していくときです。

日常の生活の中で、家庭では補う事が十分できない状況も、様々なアクシデントがつきものの子育てには度々起こってきますから、分からない育児をこちらから保育を積極的に開示していく中で支援します。親が親として自らを育てる力を引き出してきエンパワーメントしていく事で、楽しい育児へと向かうのです。　（細川）

5－3
あなたは、相談の基本原理（受容・相互信頼関係・個別性・自己決定・秘密保持）について理解し、子育て相談の実践に生かしたいと考えていますか。

基本の原理を知らずして「相談」は受けられないことを認識していますか？

相談といっても、保育園で受けられる相談とは、どういうものでしょうか。心理カウンセラーの資格が無い保育士が受けることのできる相談は、育児相談、あるいは保育相談といったものです。その事に関しては、保育園内でも共通理解のための丁寧な話し合いを持って行くことが必要です。

保育園のなかで、日々、基本原理を必ず踏まえたうえでの親との「雑談という形のピュアカウンセリング」を重ねるなかで、保育相談をするものの力がつきます。自分自身の仕事での場面の中に、プライベートをある程度開示していくものですが、お気楽な雑談で終わっていくものではありません。さらにこの雑談の効果は、子どもが危険を回避するための大きなヒントを持っている場合が多くあります。

地域には、多くの人的資源、社会的資源もあります。私たち保育園も社会資源としての多くの機能を持っている事も実感していく事です。日々の実践を丁寧に積む事、相手を大切にした誠意のある保育士として向き合う事が、実質的な自己研鑽の場面として生かされます。

日頃の取り組みは、難しい相談ケースに遭遇したときに生きていきます

これだけ多くの虐待、いじめ、自殺、不登校などが社会問題とされてきたときに、保育園も育児相談機能の中で役立つ事はあります。ただあくまで自らの領域を見極めていく事が必要です。更に横の支援の手を日頃から繋げていく努力が不可欠です。

こちらから出向いていっての会議を持つ場合も想定されます。児童相談所、保健センター、乳幼児などの子ども担当の福祉課、医療関係者などです。地域には、温かい人の力がある事を、子育てを懸命にしている親子に知らせ繋げたいものです。

（細川）

５－４
あなたは、本来業務の保育に支障がない限り、電話相談などの子育て支援を行いたいと思いますか。

たとえ電話でも、言葉は生きる事その物であり、コミュニケーションは命の基本的な営みである事を忘れないで欲しいのです。

保育園で受けられる相談に電話相談があります。その中にも丁寧な関係、相手を大切にした対応が必要です。相談のスタイルには、その人の個性にあったものがあるはずです。電話は、お互い顔が見えない事や気楽さから、取り組みやすい相談です。しかしここでも原理を必ず踏まえたうえでの保育相談をする事は、原則です。たとえ電話でも、言葉は生きる事その物であり、コミュニケーションは命の基本的な営みである事を忘れないで欲しいのです。

閉塞的な孤立型の子育ての中で、一本の電話が命を救う事があるはずです。

子どもともに居場所もなく、自己を追い詰めてしまう。家族の中で育児のつらさを発信するだけの体力、気力が枯渇している。鬱などの症状からからだが動かない。こちらから出向いていっての支援も届かない。そんな子育ての状況を抱えた者にとって電話や、インターネットが親子を救う手だてになる事があります。その点を認識し、自分自身の保育園の機能に合った取り組みを話し合う事が望まれます。そこでも基本の原理や、言葉遣いは、顔がみえないからこそ、より配慮したものが望まれます。保育園やその他で今まで多くされてきた指導型から、我々はともに地域の中で子育てをしていき、育ち合っていける仲間である事を確認した援助や支援をしていく、させてもらう関係から発生してくる言葉が必要です。（細川）

5－5

あなたは、子育て相談を実施する際に連携すべき機関等（保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等）の機能についてよく知っていますか。

連携すべき機関の機能は、具体的にどうやって知りますか。

連携すべき機関の機能は日常の保育の中で、我々も知っておく事が必要です。保育の中で、気になることへの、専門分野でのプロの指導が必要な場合も多々あるはずです。又、相談事業の中では、問題が発生してからではなく日頃からアプローチしていってあると、いざと言う時に助かっていく子どももいるはずです。最悪の事態は、子どもの命に危害が及んでしまう場合です。情報として保護者に提供していく事が求められる機関は、他にも多くあります。各種相談機関、NPO、親の会など、利用者が主体的に自ら関わる力を育てるためにも、もっと気楽に場が利用できることを知るためにも、様々な情報を提供する事が必要です。児童主任委員や民生委員など公的ボランティアで、ある程度シッカリした研修を積んだ方たちも存在します。機能をよく知っていく事で、間違った判断をしてしまわない連携の相手の選び方もあるはずです。

地域の連携で、子どもにもう一つ支援の手が伸びて、シッカリと支えてくれる、社会的親の存在が実感されていく事が望まれます。他人という人とも、ともに地域の中で生きていく事で、身近な知り合い、支援者、大切な存在としての関係を育てていく事ができれば、と思います。地域、社会の中で自らを育てる親子が人への信頼を取り戻す事を、保育園という子どもを大切にしていく福祉施設で実現していくための力の担い手になる事を願わずにはいられません。（細川）

5－6

あなたは、子育てサークル・子育てボランティアの育成・支援に関心があり、勤務園が実施するときには、協力するつもりですか。

地域の現状の把握は、されていますか？

地域で子育て支援を行っている団体、グループと連携していく事は、ひとりの子

どもにとって支援の手がもう一つ増える事にもなります。

実際に自分たちの地域にどんな子育てサークル・子育てボランティアが存在しているのか。NPO等も含め、ある程度の実態の把握もしていくと、地域の子育て環境の実状も見えてくるのではないでしょうか。保育園が子どもを軸とした地域の社会的資源としてその機能を十分生かしていくためにも、地域とのパイプ役とも言える人材の存在は、有り難いのではないでしょうか。今や、現実問題として保育園の保育士だけでは子育てできない状況も発生していきます。時代は、マスコミで取り上げる、毎日の事件をみれば分かります。親子、家族にとって、安全、安心、自由ではなく、危険と不安と困難で一杯です。乳幼児は、弱者でもあり、大切な未来を担う存在でもあります。子ども一人ひとりが人権を貴ばれる事が日本国憲法で、さらに児童福祉法で守られています。保育所保育指針でも現場に向けてしっかりと押さえられています。

保育園の職員として私たちが提供できる事は何か

保育園には、保育園としていかせる機能があるはずです。所謂保育園らしさです。現在の状況での保育園の職員として私たちが提供できる事は何か、保育園としての考えを話し合ってみます。話し合いのなかで自分自身の考えも確かめていく事が必要です。あまりにも忙しい現状の中で、処理的に関わってしまったり、大切な保育の基本を見失ってはいませんか。保育園現場とは違う場面に参加する事の意味とは何でしょう。地域に出て行き、参加し体験する事で何を学ぶのか。家庭保育の様子が手に取るように、そのまま伝わってくる場面がそこにはあるはずです。

地域で最も大切な社会的資源としての保育園が、その機能を生かし子どもの福祉を守る、子どもの心と体の健康を守る砦としてできる事は何か。現場それぞれの生かし方をみいだします。地域性、園の個性を理解した上でのアイデアが自然に生まれてきて、地域とひとつになっていきます。心の垣根を外し、先ず我々自らが地域に出て行きます。顔見知りが多い、地域の宝物として子どもと保育園が守られていく筈です。そこには、樹木、草花、虫や鳥、動物とともに大人の人間が命に向き合うことを日本の保育環境の素晴らしい蓄積である保育園保育（日々の生活）で伝え

ていきます。それは、また子どもと生きる、自然な姿の日々の生活のなかで、人が生きる事を大人が子どもに教育する最も大切な命の教育、生きる事そのものを、身体全体に教え伝える日々でもあるのではないでしょうか。人と人との関係が希薄だったり、異質な者を排除してしまう事から、本来繋がっていた繋がりをもう一度繋ぐことです。

ボランティアとは、どういう事でしょうか

ボランティアとは、どういう事かを職員間で議論していますか？　又、園長・主任に尋ねていますか？　保育園に関わるボランティアについても、同じ事が言えます。ボランタリーが語源であり、望んでやるものでしょうが、互いにルールがあるはずです。関わり方の基本を知らない者が子どもにどう関わるか、ただみるだけでも見られる暴力もというものもあります。又、有償、無償、児童主任委員などの公的ボランティアは、どうなっているのか。例えば、婦人会や自治会などはどう関わっていくのか。小、中、大学、保育、福祉・養成学校他、いろいろありそうです。

他にも、関わる者の健康はどうか、心も含め病気を持っているか、大丈夫かまた、個人の宗教も自由ですが、どういった形で付き合うのかという点にも配慮が必要です。

人と人との関係が希薄だったり、異質な者を排除してしまう事から、本来繋がっていた繋がりがないのです。それをもう一度繋ぐ事が子どもたちの助けになります。人は温かい。人は信じられる存在である。そういう心持ちで接して貰って、そういう人になっていくのでしょう。

（細川）

5－7
保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切や喜びを伝える役割を担っていることを理解していますか。

地域社会に、認可保育所の保育内容を開示していく事で何を伝えたいのでしょうか

今、楽しいはずの育児その物が、“悪いイメージ”に包まれています。地域社会

に、認可保育所の保育内容を開示していく事で社会全体に何を伝えたいのでしょうか。マスコミの影響もあって子育てのイメージは、不安であり、危険であり、大変である。そしてちゃんと育てられない、などのイメージが強いのです。育児の当事者である親にとってのリスクは膨らむばかりです。

保育園には安全安心な環境、子どもの育ちにとって適切な環境があります。子育ての健康で当たり前の変わる事のない姿があります。保育所保育指針に則して、子どもを大切にした育児の姿や内容が保育園保育の中には生きているのです。

“子どもって本来どういうものだろうか”先ず、少子高齢社会での大人社会としての価値観に包まれていることで、子どもを忘れています。子どもの個性、本来の姿を伝える力があるのも、0歳からの保育の蓄積でその姿や育児技術を知っている保育園です。又、忘れていた子どもを感覚的な部分まで思い出す為には、遊びを通して子どもと一つになることです。ただその姿に触れる事だけでだれもが、命や、夢、喜び、希望をイメージする感覚を得るはずです。保育内容の一つ一つを意識した、プロの保育技術を開示していく事で我々自身も、さらなる確認をしていくはずです。我々現場の実践している保育内容を積極的に伝えていきます。それが大切な社会への子どもからのメッセージとなり、子どもを社会全体が本当の意味で大切にすることにつながります。つまり、人間として“子育て”が大切な事であり、価値のある事であるという社会に向けた発信を、本当の子育てを脈々と、あるいは、淡々と続けた保育現場こそが出していく事です。

本来、多くの一般的な親にとって子育ては楽しいのです。原点であるその方向へ向けていくことです。

個人の利益を生むのでなく、地域、社会全体の利益を生む事が地域の保育園に求められていく時代の到来です。

（細川）